

取材のお願い

今秋、ドイツとポーランドで2つの日本美術展を同時開催！

～2020年7月以来、国際交流基金の海外企画展再開へ～

国際交流基金（JF）は、今秋ドイツとポーランドにおいて、2つの日本美術展を開催いたします。

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大により、今も人や物の国境を越えた移動は制限され、人物交流を基軸とする国際交流基金の芸術交流事業も大きな影響を受けています。しかしながら、このたび十分な感染症対策を講じつつ、2か国で日本美術の展覧会を開催する運びとなりました。JFの主催事業では、約1年半ぶりの本格的な海外展となります。

この展覧会が安全・無事に開催され、アート作品を通して日本の美術・文化を両国の多くの方々に直接体感いただくとともに、世界が日常を取り戻していくための一歩となることを祈念してやみません。

2つの展覧会の概要は以下の通りです。ぜひご取材賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 「Rimpa feat. Manga」展

会期：2021年11月24日（水）～2022年1月9日（日）

会場：ミュンヘン五大陸博物館（ドイツ・ミュンヘン）

主催：国際交流基金（JF）、ミュンヘン五大陸博物館

監修：細見 良行

協力：細見美術館



「Rimpa feat. Manga」展 ポスタービジュアル

2. 「集団と個の狭間で－1950年代から60年代の日本前衛美術」展

会期：2021年11月25日（木）～2022年3月13日（日）

会場：ザヘンタ国立美術館（ポーランド・ワルシャワ）

主催：国際交流基金（JF）、ザヘンタ国立美術館

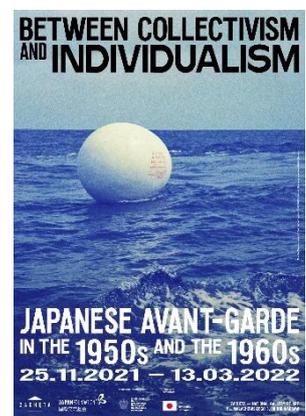
キュレーター：マリア・ブレヴィンスカ（ザヘンタ国立美術館キュレーター）

日本側企画委員：水沢 勉、靱山 昌夫、毛利 直子、牧野 裕二

企画協力：神奈川県立近代美術館、高松市美術館

特別協力：東京国立近代美術館

協賛： Lufthansa Cargo
Networking the world.



「集団と個の狭間で」展 ポスタービジュアル

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

取材のお願い

日独交流 160 周年記念「Rimpa feat. Manga」展 ～ドイツ・ミュンヘン五大陸博物館にて開催～

国際交流基金（JF）は、日独交流 160 周年を記念し、ミュンヘンの五大陸博物館において「Rimpa feat. Manga」展を開催します。

日本美術の装飾的特質を代表する流派である琳派、江戸中期の天才絵師・若冲は、ともに国内外で高い人気を誇り、現代のクリエイターにとっても芸術創造の源泉であり続けています。細見良行氏監修による本展覧会では、鉄腕アトムやリラックマ、初音ミクといった人気のキャラクターが、琳派や若冲の名画の一場面が登場したり、モチーフの一部と入れ替わったりするユニークな現代の日本画作品を紹介。これらの現代の日本画は、京都の呉服メーカーであり日本画の工房でもある豊和堂によって制作されたもので、主役も背景もすべて絵師の巧みな筆技によって写し取られています。

また、本展では、細見美術館等のご厚意により、豊和堂作品の引用元となった琳派や若冲の名画を特別出品します。両作品の時空を超えた芸術的対話を通して、現代日本における伝統と創造の一つのあり方を紹介する展覧会です。

記

展示：「Rimpa feat. Manga」展
会期：2021年11月24日（水）～2022年1月9日（日）
会場：ミュンヘン五大陸博物館（ドイツ）
主催：国際交流基金（JF）、ミュンヘン五大陸博物館
監修：細見 良行
協力：細見美術館

以上



画像① 豊和堂《火の鳥×松島》
2017年 紙本金地着色 6曲1双 豊和堂蔵
©Tezuka Productions



画像② 豊和堂《鉄腕アトム×富士》
2021年 紙本金地着色 6曲1双 豊和堂蔵
©Tezuka Productions

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

ミュンヘン五大陸博物館 (Museum Fünf Kontinente)

江戸時代に来日し、『日本』や『日本植物誌』を著したことで知られる
フリッパ・フランツ・フォン・シーボルトが収集した貴重な民族学的資料を
収蔵する博物館。

日本と縁の深い同館での本展開催は、日独文化交流史に新たな 1
ページを刻むものと期待されます。

画像③ ミュンヘン五大陸博物館
© Museum Fünf Kontinente, photo by Nicolai Kästner.



展示作品：



画像④



画像⑥



画像⑦



画像⑤

画像④ 伊藤若冲《鶏図押絵貼屏風》(左隻)
寛政9年(1797) 紙本墨画 6曲1双
細見美術館蔵

画像⑤ 豊和堂《初音ミク×若冲鶏1》
2017年 絹本着色 1幅 豊和堂蔵
Art by iXima © Crypton Future Media,
INC. www.piapro.net **piapro**

画像⑥ 鈴木其一《月に葛図》
江戸後期 絹本着色 1幅 細見美術館蔵

画像⑦ 豊和堂《鉄腕アトム×月に葛》
2017年 絹本着色 1幅 豊和堂蔵
© Tezuka Productions

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター (広報担当：熊倉、原田)

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp



画像⑧ 神坂雪佳『百々世草』
明治42/43年 紙本木版 細見美術館蔵



画像⑨ 豊和堂《リラクマ×八つ橋》
2017年 絹本着色 1幅 豊和堂蔵
©2021 San-X Co., Ltd. All Rights Reserved.



画像⑩ 「Rimpa feat. Manga」展 ポスターヴィジュアル

■広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の熊倉・原田（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。本プレスリリースに使用している画像すべてをお貸し出しいたします。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・Webでの掲載に際しては、必ずコピーガードをつけていただくようお願いします。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

取材のお願い

「集団と個の狭間で – 1950年代から60年代の日本前衛美術」展 ～ポーランド・ザヘンタ国立美術館にて開催～

国際交流基金（JF）は、ポーランドの首都ワルシャワにあるザヘンタ国立美術館において「集団と個の狭間で – 1950年代から60年代の日本前衛美術」展を開催します。

日本が戦後の復興を遂げ、経済的に急成長し始めた1950～60年代、若い芸術家や芸術家グループは、急速に変貌してゆく都市や社会のエネルギーを糧にして、より新しく自由な表現を追い求め、多くの刺激的な作品を生み出しました。本展覧会では、日本美術の大きな転換点となったこの時代を代表する絵画、彫刻、写真、グラフィック等を領域横断的に100点以上展示することで、戦後の日本美術の歩みをたどろうとするものです。

日本の前衛美術が、これだけまとまった形で海外に包括的に紹介される機会は稀であり、本展の開催はポーランドにおいて大きな反響を呼ぶものと期待されます。主な出品作家は、^{あいおう}巖嘔、赤瀬川原平、池田龍雄、高松次郎、田中敦子、浜田知明、横尾忠則ほかです。

記

展示：「集団と個の狭間で – 1950年代から60年代の日本前衛美術」展

会期：2021年11月25日（木）～2022年3月13日（日）

会場：ザヘンタ国立美術館（ポーランド・ワルシャワ）

主催：国際交流基金（JF）、ザヘンタ国立美術館

キュレーター：マリア・ブレヴィンスカ（ザヘンタ国立美術館 キュレーター）

企画協力：神奈川県立近代美術館、高松市美術館

日本側企画委員：水沢 勉（神奈川県立近代美術館長）

荻山 昌夫（神奈川県立近代美術館普及課長）

毛利 直子（高松市美術館美術課長補佐）

牧野 裕二（高松市美術館業務第一係長）

特別協力：東京国立近代美術館

協賛： **Lufthansa Cargo**
Networking the world.

以上



画像① 巖嘔《田園》1956年 油彩、合板 東京都現代美術館蔵



画像② 赤瀬川原平《復讐の形態学（殺す前に相手をよく見る）》
1963年 インク、紙 名古屋美術館蔵

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp

ザヘンタ国立美術館 (Zachęta – National Gallery of Art)

1900年、現代美術を社会に普及させることを使命として開館。100年以上の歴史がある建物では、20世紀ならびに21世紀の作品が展示されています。また、ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展及び国際建築展のポーランド館の監修、主催を務め、若手のアーティストの作品も積極的に紹介しています。

画像③ ザヘンタ国立美術館
photo by Piotr Bednarski
courtesy of Zachęta – National Gallery of Art, CC-BY-SA



展示作品：



画像④ 高松次郎《点》
1961年 ラッカー、針金 豊田市美術館蔵 撮影：林達雄
©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates



画像⑤ 白髪一雄《天威星雙鞭呼延灼》
1964年 油彩、カンヴァス 高松市美術館蔵
撮影：宮脇慎太郎



画像⑥ 岡本太郎《燃える人》
1955年 油彩、カンヴァス 東京国立近代美術館蔵

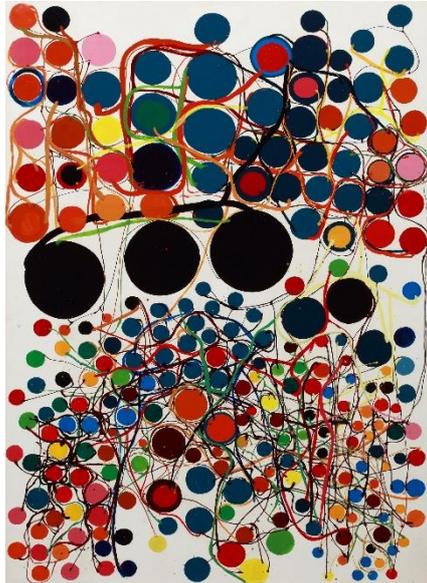


画像⑦ 池田龍雄《二人（「禽獣記」シリーズより）》
1958年 インク、水彩、紙 国立国際美術館蔵

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp



画像⑧ 田中敦子 《黒い三ツ玉》
1962年 油彩、カンヴァス 滋賀県立美術館蔵
©Kanayama Akira and Tanaka Atsuko Association



画像⑨ 菊畑茂久馬 《奴隷系図(貨幣による)》
1961/1983年 布、5円硬貨、蠟燭、木ほか
東京都現代美術館蔵 撮影：木奥恵三

■広報用画像

画像を希望される方は、広報担当の熊倉・原田（press@jpf.go.jp）までご連絡ください。本プレスリリースに使用している画像すべてをお貸し出しいたします。

【ご使用時の注意点とお願い】

- ・画像のご使用は本展の広報目的のみに限ります。
- ・画像の掲載に際しては、作家名、作品名、作品情報及び所定のクレジットを必ず記載してください。
- ・画像の改変（トリミング、部分使用、文字のせ含む）、画像の二次使用はご遠慮ください。
- ・Webでの掲載に際しては、必ずコピーガードをつけていただくようお願いします。
- ・掲載誌または掲載記事を広報担当者までお送りください。

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 E-mail: press@jpf.go.jp